

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 711 号	氏名	関野 有紀
学位審査委員	主査	小路 武彦	
	副査	宇谷 厚志	
	副査	千住 秀明	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、関節不動化に伴う痛みの発症機構を明らかにするため、ラット不動化モデルを用いて末梢の皮膚組織での知覚神経線維の動態と神経成長因子(NGF)や侵害刺激受容体の発現等を検討するもので研究目的として妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 本研究では、ラット右足関節の不動化モデルを作成し、当該足底部において経時的に von Frey filament (VFF)刺激への逃避反応と熱痛覚閾値の検討を行った。更に、足底部中央の皮膚組織を用いて A 及び C 線維の密度変化をマーカーを用いた免疫組織化学により測定し、NGF 及び侵害刺激受容体として温度感受性イオンチャネル(TRPV1)と ATP 依存性イオンチャネル(P2X₃)も特異抗体を用いて免疫組織化学的に検討しており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 以上の検討の結果、不動群では VFF 刺激に対する逃避反応回数は有意に増大し、一方熱痛覚閾値は有意に低下した。更に A 線維及び C 線維共に密度の経時的な増大と共に表皮での NGF 及び侵害刺激受容体(TRPV1 と P2X₃)の有意な発現の増大も認められ、痛みの行動学的変化と密接な関連が見い出された。これらの研究結果と考察内容は高く評価できる。</p> <p>以上のように、本論文は関節不動化に伴う痛覚過敏症の発症機構の理解に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			